

# オンリーワン幼稚舎研修報告書

授業を見させていただいて、ありがとうございました。

私は、小学校前、外で走り回って遊んだりしていた記憶があり、授業のようなものを受けたことがなかったです。大学でも、子どもは遊びによって学ぶとか、遊んで、興味をもったりしていくことが大切だと習っていて、簡単に英才教育はダメなのだと思っていました。だから、オンリーワン幼稚舎で英語をやっていたり、心育というものはどのようなものなのだろうと考えていました。

いざ、見学してみると、子どもたちが生き生きと楽しくいることが分かりました。知識をただ詰め込むというイメージのあった日本の城、百人一首なども雑学を加えることによって、子どもたち自身興味湧き知識ではなく、知恵になっていくのかなと思いました。

また、授業を見ていて、先生のリズムが良く、はっきりしていることに気が付きました。話のテンポや話の切り替え方も含めて、リズムが良いと、子どもたちが「いま何をする時間」だということがわかるということ、子どもたちにそのようなリズム感が身につけば間が良くなるということも学びました。そして、子どもたちが切り替えることができるように先生が声の大きさや、強弱、トーンなど工夫して変えていることが分かりました。先生がやっていたら、子どもたちにも伝わって、ぱっと切り替えやすくなると思いました。

そして、これだけの工夫をこらした授業をできるようになるには当日だけでなく、事前に考えて、当日を迎えなければできないと思い、準備を毎日することの大変さやそれをやりきる先生のすごさを感じました。

私は、松田先生のゼミで「嫌われる勇気」という本を読み、アドラー心理学について少し勉強しました。志道先生の facebook でよく、「アドラー心理学」という文字を見ていたので保育にアドラー心理学をどう取り入れているのか気になっていました。

そこで、授業を見ると、先生は子どもたちのことを前向きにとらえ一切否定をしていないことに気が付きました。先生から否定されないことで、自分に自信がつき、自分自身を認めることができると学びました。自分はかけがえのない人、存在なんだと思うことができればグループワークなどでも、素直な自分の意見や気持ちを相手に伝えることができたり、相手も同じように伝えることができる関係ができていくと思いました。それが、心育での、グループ内での会話につながっていると思いました。

子どもたちがそう育っていくためには、先生が日々どう接しているかがとても大切だと思いました。「幸せになる」という点で先生が本気で楽しんでいたり、子どもたちの気持ちに寄り添ったりしているところから、長所も短所も含めてその個人として認めてあげることが大切だとわかりました。その姿勢や姿が子どもたちにも見え伝わって、子どもとの信

頼関係もできていくと思いました。

道徳の授業のような心の教育は、自分の気持ちを色で表すところから入り、とてもおもしろいと思いました。子どもたち一人ひとり違う色だったり、同じ色であっても気持ちが違ったり様々でした。友達に「あの子の靴かくしてこい」といわれたときどうするかというテーマでそのときの気持ちを含めて考えていました。子どもたちは、悲しい気持ちなどを色にも表していましたが、すべてが同じではなく先生もわかった上で、受け止めて聞かれていると感じました。グループワークでは私が話を聞こうとすると、自分の意見を話し、グループ内でも少しですが話すことができていました。最後に、先生は、どうすることが正しいとか何が正解などを全く言いませんでした。

心を育てるということは、自分で考えて、正しいと思うものをつくっていくということだと学びました。「友達のくつだからかくさない」という以外にも「その場から離れる」「誰かに相談する」という答えも良いと思いました。

知識を知恵に変えるとありましたが、そういった頭がいいだけでなく、相手の気持ちを考えることができることが小学校に上がっても、社会に出ても大切だと思いました。

今回、見学して初めて見たことがとても多くありました。見たことで完結するのではなく、自分が教師になったときに何を生かそうと考えていきたいと思います。授業のはじめに瞑想のような子どもたちが、「無になる時間」を取り入れていくことで、子どもの気持ちの切り替えもできると思います。アドラー心理学の考え方の否定しないという考え方を実践していくのはすごく難しいと思いましたが、今から意識してやっていこうと思います。いけないことはいけないといえるようにもならなければいけないとも感じました。

今回学んだことを生かしていけるように小学校において考えていきたいと思いました。